

ことわざ・慣用句シリーズ

ここでは毎月、覚えておきたいことわざと慣用句を取り上げます。みなさんはどのくらい知っていますか？

慣用句

『顔が広い』

意味:多くの人によく知られている。多くの人を知っている。の意味。

ひとつ:類義語として「顔が売れている」がある。

使い方:彼は顔が広くて、みんなにいろいろなことを頼まれる。

『顔から火が出る』

意味:とても恥ずかしい思いをして、「顔が真っ赤になる」こと。

使い方:授業参観日に母が大きな声でぼくの名前を呼んだので、顔から火が出た。

ことわざ

『鬼の目にも涙』

意味:怖い人でも時には情け深くなることのあるの意味。

ひとつ:怖い鬼でさえ、涙を流して同情することがあるということから。

使い方:優勝したとき、いつもは怖い監督の目に涙が光っていた。「鬼の目にも涙だなあ」。

『尾にひれをつける』

意味:話に事実でないことを付け加えて大げさにすること。

ひとつ:“尾にひれがつく。”“尾ひれがつく。”という言い方もする。

使い方:彼は尾にひれをつけてうわさを流す悪い癖(くせ)がある。